

「光輝（かがやき）」プログラム		幼小接続期	1年生	(全 27 時間)
1年生で育成したい資質・能力				
育成したい資質・能力	躍動する感性	①	人間味溢れる豊かな感覚	新しい環境に対して、心を動かして主体的にかかわる。教師の共感的理解をもとに、一人一人が自らの感じたことや考えたことを安心して表現する。
		②	自ら学ぼうとする姿勢	思いや願いを大切にしながら学びをつくり出し、満足感や達成感を味わう。当事者意識をもって自治活動をする。
	レジリエンス	③	粘り強く取り組む力	できたことに自信をもち、さらなるステップアップをめざす。困難を乗り越える経験をする。
		④	コラボレーションする力	安心できる人間関係がつかれるように、担任教師との関係づくりをする。見えていないよさに触れて、人間関係を少しずつ広げる
		⑤	複眼的に思考する力	生活や学習の中で見つけた課題の実現に向けて、友達の考えややり方に触れて、よりよい解決へつなげる。
	横断的な知識	⑥	知識と知識を関連づけながら深く追究する力	幼児期までの学びをつなぎ、新しい環境（小学校生活）に適応する。
		⑦	論理的に問題を解決する力	

単元名	「ペアさんとなかよし」
単元を通してめざす子ども像	ペアさん（5年生）と仲良くなりたいという思いや願いをもち、進んでペアさんと、かかわっている。思いや願いの実現を目指して自ら進んで取り組んだり、経験や既有知識を生かして考えたり、試行錯誤しながら最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。また、グループで企画する際には、友達の考えのよさに目を向けたりよりよい方法を考え、協力して取り組もうとすることができる。

段階	I (1~5)	II (6~8)	III (9~11)	IV (12~27)		
学習課題	ペアさんってどんな人かな。知りたいな。	ペアさんとどうしたらもっと遊べる（仲を深められる）か。	交流会を通して、ペアさんと仲良くなれたか。	前回の課題を生かして、交流会を考え実践する。		
育成したい資質・能力	人間味溢れる豊かな感覚	ペアさんと初めて出会う場を設ける		活動前と後で仲良くなれたか、振り返る。	もっとペアさんと仲良くなりたいという思いをもち、次回の交流会を考える。	
		コミュニケーションをとる・質問する		想起する・認識する	生み出す・協力する	
	自ら学ぼうとする姿勢		ペアさんとどうしたら仲を深められるか考える		自分たちが主体となって交流会を実施する	
			選択する・判断する		実施する・実行する	
	粘り強く取り組む力				前回の課題を改善するにはどうしたら良いか考える。	
					見直す・判断する	
	コラボレーションする力		遊びや方法について話し合う	友だちとペアさんのかかわりを聞き、良さを受け入れる。	友達と協力して交流会を実施する	
			列挙する・議論する	称賛する・見直す	準備する・協力する	
複眼的に思考する力						
知識と知識を関連づけながら深く追究する力		既存の知識や経験をもとに考える				
		関連付ける・応用する				
論理的に問題を解決する力						
関連する活動	教科	生活科	国語（話す・聞く）	図画工作、体育	国語（話す・聞く）	
	見方や考え方	身近な人々と自分との関わり	言葉の働き	感性・想像力、楽しさ・喜び	言葉の働き	
	道徳	活動	道徳資料「たのしい がっこう」を題材として、これからの学校生活への期待を膨らませて、学校の生活を楽しむために、どんなことができるか話し合った。			ペアさんとの交流会を振り返ることを通して、協力し合うことの大切さについて話し合った。
		内容項目	よりよい学校生活			友情・信頼
	道徳	活動				
		内容項目				
特活	はたらきかけ	5年生とかかわる機会を保障し、個人の課題を全体に広げる。	全体で交流する場を設け、様々な選択肢がある中で、どれが一番仲良くなれるのかを自己決定することができるようにする。	学習を通して「ペアさんともっと仲良くなりたい」という思いは実現できたのかを、具体的に振り返る場を設定する。	友達と話す場を設け、友だちの考えのよさを受け入れて活動を考えたり改善できたりするようにする。	
	はたらきかけ					

評価方法	観察	観察	観察・振り返りシート	観察・振り返りシート
------	----	----	------------	------------

「光輝（かがやき）」実践記録			幼小接続期	1年生	(全 27時間)
単元名		「ペアさんとなかよし」			
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿	教師の気づき	
				計画変更点・理由	有効であった手立て
I	観察	①	<ul style="list-style-type: none"> 初めてペアさんに会う時には、受け身な態度であった。 ペアさんに興味をもち、休憩時間に会いに行く様子が見られた。 		<ul style="list-style-type: none"> 光輝単元としてすぐに「ペアさんとなかよし」を立ち上げるのではなく、子どもが自らの意思でかかわる期間を設けることで、もっと仲良くなるためにはという切実な思いが出てきた。
II	観察	② ④ ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間に遊びに行っても、ペアさんとなかなか遊べないので、まとまった遊ぶ時間が欲しいと考えた。 どうしたら、ペアさんと遊ぶ時間が合わせられるのか考えた。「事前に約束する」「招待状を書く」等のアイデアが出た。 基本的に、ペアさんと自分が遊びたい遊びで交流会を開くことになった。 		<ul style="list-style-type: none"> ペアさんともっと遊びたい（仲良くなりた）という切実な思いが湧き上がっていたからこそ、積極的にアイデアが出された。子どもの考えを共感的に受け止めながら、聞いたり、それぞれ考えた遊びを尊重することで、より自ら学んでいこうとする姿が見られた。
III	観察	①	<ul style="list-style-type: none"> 自分がペアさんと遊びたい遊びを思いっきり楽しんだ。 		<ul style="list-style-type: none"> 1時間、子どもが思ったことを実行できる場を設けた。 振り返りに、言葉の記述だけでなく、活動前と活動後でどのくらい仲が深まったのか、色のメーターで表すことで、視覚的にも認識しやすくなった。 困ったことを全体共有することで、個の困り感を共感的に聞いたり、アドバイスを出したりして解決しようとする事ができた。
	観察・振り返り	① ④	<ul style="list-style-type: none"> 交流前より交流後の方が仲が深まったと自己評価した。 交流会の中で、困ったこととして、「最初にペアさんと合流できなかった」「自分がペアさんとはぐれてしまった」「ペアさんが一緒に遊んでくれなかった」という意見が出た。 なぜそうなったのか、交流する中で、「待ち合わせ場所を書く」「ペアさんと一緒に遊ぶ」「ペアさんの好きな遊びも取り入れる」等の改善案が出てきて、また交流会をしたいという思いが出てきた。 		
IV	観察	① ③	<ul style="list-style-type: none"> 前回出た課題をどう改善するか交流し、様々なアイデアの中から自分ができそうなものを取り入れる。 ペアさんに招待状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 先に5年生が1・5交流会で、実行委員会を中心とした会が行われ、1年生もそれを見て、全体で会を計画して5年生のようにやってみようと言っていたが、5年生が全体での会ではなく、ペア同士で遊ぶように企画していたため、第2回目も全体での会のアイデアは出なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の課題（困ったこと）が改善できるように準備の時間や実践の場を設けた。 雨で外で遊べなかったため、体育館に集合して、周りを見ずに遊んでいる様子が見られたりペアさんが決めてくれたりしていた。その場を写真や動画をとっておき、自分たちの行動がどうであったか、振り返りの場で見せることにより、客観的に自分たちを見て、課題点を捉えることができた。 課題点やペアさんとは仲良くなれたという子どもの思いを尊重し、次時へつなげていく。
	観察	② ④	<ul style="list-style-type: none"> 第2回1・5交流会を開く。 それぞれ、ペアさんとして遊びをする。事前に、ペアさんに聞いた遊びをする子もいれば、その場で楽しそうな遊びをする子もいる。 ペアさん以外の5年生とも遊ぶ子がいる。 		
	観察・振り返り	① ③	<ul style="list-style-type: none"> 交流前と交流後では、ペアさんと仲良くなれたと振り返った。 前回の課題は多くが改善されたが、雨のため、外が使えず体育館での実施だったため、ボールを使ったり走り回ったりするグループが混在し、危なかったと新たな課題も発見した。 		
			現在IV段階の途中のため、まだ記述していません。		